

大田原市母子保健計画  
【中間評価】

# 愛あいプラン

(第4次)



令和4年3月  
大田原市

## 第1章「母子保健計画」の基本的考え方

### 1. 基本理念

#### (1) 基本理念

「みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産・子育てできるまち おおたわら」

#### (2) 3つの基盤課題と2つの重点課題

市が特に重点を置く母子保健課題を示しています。

基盤課題A 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

重点課題① 妊娠期からの児童虐待予防の取り組み

重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

## 2. 計画の体系

この計画は、母性並びに子どもの健康の保持増進を図るために、基本的な事項と推進に必要な方策を明らかにしたものです。さらに、本市の上位計画である「大田原市総合計画」をはじめ、「大田原市子ども・子育て支援事業計画」「大田原市未来創造戦略」「大田原市健康増進計画 第2次健康おおたわら21計画」「大田原市食育・地産地消推進計画」等との十分な整合性を図るものとします。

国

健やか親子21第2次(母子保健法)

県

とちぎ子ども・子育て支援プラン

市

大田原市総合計画

- ・大田原市子ども・子育て支援事業計画
- ・大田原市未来創造戦略
- ・大田原市健康増進計画 第2次健康おおたわら21計画
- ・大田原市食育・地産地消推進計画

大田原市母子保健計画  
「愛あいプラン(第4次)」

## 3. 計画期間

この計画は、平成29年度から令和8年度までの10年間を計画期間としており、令和3年度に中間評価を行います。

# 愛あいプラン(第4次)



みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産・子育て  
できるまち おおたわら

## 子育て・健康支援

(重点課題①)

妊娠期からの  
児童虐待予防への  
取り組み

(重点課題②)

「育てにくさ」を感じる  
親に寄り添う支援

相談  
相手

予防  
接種

不妊

少子化

健康  
診査

産後  
うつ

低出生  
体重児

性

身体  
活動

歯科

心の  
健康

食育

喫煙  
飲酒

肥満  
やせ

(基盤課題A)

妊娠・出産・子育ての切れ目ない  
支援

(基盤課題B)

学童期・思春期から  
成人期に向けた保健対策

(基盤課題C)

子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

## 第2章 中間評価の目的と方法

### 1. 中間評価の目的

計画期間（平成29年度～令和8年度）の中間年にあたる令和3年度に、計画の進捗状況を把握し、目標の妥当性や達成状況について中間評価を行います。

指標の達成状況等を踏まえて目標の達成に向けた課題について整理し、今後の計画推進の方向性を明らかにします。

### 2. 中間評価の方法

計画に掲げる指標（33項目）について、ベースライン値（計画策定時の値）と直近値（令和2年度）を比較し、目標値の動き等から、目標の達成状況についての分析を行いました。

なお、直近値は「すこやか親子21アンケート」（注1）、「5歳児健康診査票」（注2）、「小中学校アンケート調査」（注3）、「保育園・認定こども園における身体活動（体を動かす遊び）に関するアンケート調査」（注4）のほか、母子保健事業の実績等から把握し、次のとおり分類し評価しました。

1	順調	計画策定時より改善しており、目標にむけて順調に進んでいるもの
2	概ね順調	計画策定時より改善しており、概ね順調に進んでいるもの
3	やや遅れ	計画策定時の値より改善していない（横ばい）、または、目標に向けて遅れているもの
4	遅れ	計画策定時の値より悪化しているもの
5	評価困難	計画策定時と調査方法が異なる等の理由により評価が困難であるもの

（注1）令和2年4月～令和3年3月 乳幼児健診で実施

調査対象者数：2,342名 回答者数：2,269名（回収率：96.9%）

（注2）令和2年4月～令和3年3月 5歳児健診で実施

調査対象者数：553名 回答者数：552名（回収率：99.8%）

（注3）令和2年8月～9月市内の小学校5・6年生、中学校1・2・3年生を対象に実施

調査対象者数：市内の小学校5・6年生1,174名 中学校1・2・3年生1,710名

回答者数：市内の小学校5・6年生1,174名（回収率：100%）

中学校1・2・3年生1,710名（回収率：100%）

（注4）令和3年1月13日～1月29日 市内保育園及び認定こども園を対象に実施

調査対象園：市内18園 回答園：18園（回収率：100%）

### 第3章 中間評価の結果

#### 1 基盤課題A 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

目標：妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制を構築し、安心して子育てができるように支援する

##### 1 妊娠期から出産まで

###### (1) これまでの取り組み

- 妊娠届出時に、妊婦のBMI（体格）に応じた妊娠中の目標体重増加量について説明し、低出生体重児のリスクを高める要因や体格に合わせた体重増加について知識の普及啓発を行っている。
- 妊娠届出時や乳幼児健康診査時に、本人・パートナー・同居家族など、身近に喫煙者がいる場合、たばこの害に関する知識を周知するとともに、近隣の禁煙外来を紹介している。
- 妊娠届出時点で妊婦が飲酒をしている場合には、お酒が胎児奇形のリスクを高めるなど、さまざまな影響をもたらすことを説明し、禁酒への意識付けを行っている。

###### (2) 評価

指標名	ベースライン	令和2年度	中間評価	最終評価目標
1 全出生数中の低出生体重児の割合	10.4%	8.9%	順調	減少
2 妊娠中の妊婦の喫煙率	3.4%	1.5%	順調	減少
3 育児期間中の両親の喫煙率			順調	減少
母 4か月児健診	5.6%	3.5%		
1.6歳児健診	8.1%	6.2%		
3歳児健診	13.0%	11.1%		
父 4か月児健診	46.9%	37.8%		
1.6歳児健診	56.1%	42.1%		
3歳児健診	45.7%	42.2%		
4 妊娠中の妊婦の飲酒率	1.1%	0.5%	順調	減少

○4つの指標すべてが、ベースラインと比較して改善傾向である。

○指標 No. 3「育児期間中の両親の喫煙率」は、健診対象児の年齢が大きくなる程、母・父の喫煙率も上昇する傾向にあり、喫煙率を低い値で維持することが課題である。

(3) 今後の対策

- 母子健康手帳交付時に、公益社団法人日本産科婦人科学会が令和3年3月に策定した「妊娠中の体重増加指導の目安」を周知し、妊娠中の体重増加について意識付けを行い、妊娠中の健康管理の重要性について、普及啓発を行っていく。
- 妊娠届時や乳幼児健康診査の機会に、たばこが妊婦・胎児・子ども・喫煙者本人など、あらゆる人に悪影響を与えることや受動喫煙のリスクなど、正しい情報の普及啓発を行う。また、健康政策課と連携しながら、社会全体として、子育て世代だけでなく、全ての世代に対して禁煙の啓発、周知を行っていく。
- 飲酒を続ける妊婦に対して、胎児への影響を周知し、飲酒への認識や生活状況など、飲酒の背景を把握し、電話や訪問で継続して関わることで、禁酒への意識付けを行っていく。

2 乳幼児期

(1) これまでの取り組み

- 各乳幼児健診時に、児の発育発達の遅れや疾病を早期発見するとともに、保護者との育児相談を通して、虐待の早期発見や予防、児の健やかな成長を促すための支援を行っている。
- 健診の未受診者に対しては、健診お知らせの再通知や担当保健師の家庭訪問等による受診勧奨を行っている。
- 各乳幼児健診や窓口対応を通して、子どもの予防接種や健康管理をサポートしてくれるかかりつけ医を持つことや、子どもの事故防止対策及び小児救急電話相談（#8000番）の周知を行っている。

(2) 評価

指 標 名	ベース ライン	令和2年度	中間評価	最終評価 目標
5 乳幼児健康診査の受診率				
4か月児健診	99.1%	97.8%	概ね順調	増加
10か月児相談	96.7%	92.9%		
1.6歳児健診	98.8%	95.3%		
2歳児歯科健診	95.5%	98.2%		
3歳児健診	97.1%	99.4%		
6 子どものかかりつけ医を持つ親の割合				
医 師	97.5%	85.2% (3~4か月)	評価困難	増加
歯科医師 3歳児	49.4%	96.8% (3歳児)		
		34.3%		

7	#8000 番を知っている親の割合	64.8%	83.5%	順調	増加
---	-------------------	-------	-------	----	----

○指標No.5「乳幼児健康診査の受診率」は概ね維持され、指標No.7「#8000 番を知っている親の割合」については増加しており、支援や情報提供を通して、保護者自身の意識も高まっていることが分かる。

○指標No.6「子どものかかりつけ医を持つ親の割合」については、ベースライン時と調査方法が異なるため、評価困難とした。

### (3) 今後の対策

- 乳幼児健康診査時には、引き続き保護者のニーズを踏まえ、待ち時間の短縮や保護者の満足度が高くなるような健診内容や体制を検討し、実施する。
- 乳幼児健康診査の未受診者に対しては、健診お知らせの再通知や保健師の家庭訪問等による受診勧奨を行い、幼稚園・保育園などの関係機関と連携しながら、必要に応じて適切な対応を図る。
- 子どもの事故防止対策や予防接種の受診勧奨等を通して、日常的に乳幼児の健康管理をサポートしてくれるかかりつけ医を持つことや小児救急電話相談（#8000番）について、周知徹底に取り組んでいく。

## 3 健康づくりの推進

### (1) これまでの取り組み

- 新生児訪問や各乳幼児健診、健康教室等を通して、生活リズムや食習慣の重要性について、情報提供を行っている。特に支援が必要な方については、管理栄養士や歯科衛生士による個別相談につなぎ、支援している。
- 外遊びの重要性については、各乳幼児健診時に、パンフレット等を保護者に配布し、情報提供を行っている。また、各保育園や幼稚園に対しても、5歳児健診の場などで外遊びの重要性について再確認し、連携を図っている。
- 各乳幼児健診時に、月齢に合わせた口腔ケア方法やむし歯のリスクを高める生活習慣について、情報提供をしている。また、1歳6か月児健診と2歳児歯科健診時には、歯科衛生士による個別相談を実施している。



## (2) 評価

指 標 名	ベース ライン	令和2年度	中間評価	最終評価 目標
8 子どもの生活リズム 7時までに起床する児の割合 21時までに就寝する児の割合	67.1% 31.2%	64.0% 24.6%	評価困難	増加
9 主食・主菜・副菜をそろえて 食べる頻度	62.0%	64.2%	評価困難	増加
10 天気の良い日は、保育園・幼 稚園で1日60分以上外遊び する園の割合	100%	100%	順調 (達成)	維持
11 むし歯のない3歳児の割合	75.2%	86.7%	順調	増加
12 仕上げ磨きをする親の割合	97.8%	99.0%	順調	増加

- 指標No.8「子どもの生活リズム」、指標No.9「主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度」についてはベースライン時と調査方法が異なるため、評価困難とした。
- 指標No.10「天気の良い日は、保育園・幼稚園で1日60分以上外遊びする園の割合」については、ベースライン値から中間評価において目標を達成した。
- 指標No.11「むし歯のない3歳児の割合」、指標No.12「仕上げ磨きをする親の割合」は増加しており、乳歯の萌出前から、乳歯の役割や口腔ケアの情報提供を行ったことで、子どものむし歯予防に対する保護者の意識が高まっていると考えられる。

## (3) 今後の対策

- 乳幼児期からの生活リズムや食習慣の重要性を新生児訪問や各健康診査、教室、子育てセミナー等を通して普及啓発する。
- 歯科衛生士と連携しながら、各健康診査において年齢に応じた口腔ケアや、むし歯のリスクとなる食生活について普及啓発し、むし歯予防に取り組んでいく。また、祖父母手帳を活用し、祖父母世代に対しても子どものむし歯予防について情報提供をしていく。
- 外遊びの重要性については、引き続き、各乳幼児健診等においてパンフレットを配布し、保育園・幼稚園と連携しながら、保護者への周知を図っていく。

② 基盤課題 B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

目標：子どもが主体的に取り組む健康づくりを支援し、次世代の健康を育む  
保健対策の充実を図る

1 思春期の心と身体健康づくり

(1) これまでの取組み

- 男女ともに妊娠・出産の適齢期を知り、ライフステージの中で結婚や妊娠・出産を含めたライフプランを考える力を培い、望まない妊娠を減らすために、産業文化祭等での妊娠・出産に適した時期についての普及啓発を行っている。
- 妊娠に関する様々な相談ができる窓口として、子育て世代包括支援センターを幅広く周知している。
- 小中学生が命の大切さを学び、自分自身や他者を大切にすること、多様性を認め合うことを考える機会として、外部講師による思春期健康教室を実施している。
- 10代での飲酒や喫煙が健康に及ぼす影響について、広報により啓発している。
- 学童期・思春期の健康課題を共有するため、定期的に養護教諭部会役員との情報共有会を開催し、連携強化に努めている。
- 子どもの自己肯定感を育てる土台作りとして、乳幼児期からの安定した親子関係構築のために、乳幼児健診等時には保護者の気持ちに寄り添いながら子どもの特性に応じた相談支援を行っている。

(2) 評価

指標名	ベースライン	令和2年度	中間評価	最終評価目標
1 10代の人工妊娠中絶率(栃木県)	5.3% (H26)	—	評価困難	減少
2 10代の自殺死亡率(栃木県)				
10歳から14歳	1.1 (H26)	3.5 (R1)	遅れ	減少
15歳から19歳	4.3 (H26)	9.8 (R1)		
3 小中学生の飲酒率※				
小学生	13.6%	9%	順調	減少
中学生	10.8%	8%		
4 小中学生の喫煙率※				
小学生	1.1%	0.7%	順調	減少
中学生	0.6%	0.5%		

※指標No.3「小中学生の飲酒率」は、「1年以内に1回以上飲酒した人の割合」

※指標No.4「小中学生の喫煙率」は、「たばこの喫煙を行う人の割合」

- 指標No.1「10代の人工妊娠中絶率（栃木県）」について、令和2年度値は現在調査中であるため、中間評価結果は評価困難とした。
- 指標No.2「10代の自殺死亡率（栃木県）」はベースライン値と比較して、10～14歳と15～19歳のどちらも増加している。全国的にも子どもの自殺については深刻な状態にあり、子どもの自殺対策については重要な課題である。
- 指標No.3「小中学生の飲酒率」、指標No.4「小中学生の喫煙率」については、ベースライン値と比較していずれも減少している。養護教諭と連携して、未成年の飲酒・喫煙防止のための啓発活動に取り組んだ成果と評価することができる。

### （3）今後の対策

- 養護教諭との連携を深め、学童期・思春期の健康課題を共有するため、養護教諭部会役員との情報共有会を継続する。
- 関係機関と連携し、小中学生の実態に即した内容や方法で思春期教室を継続することにより、性の多様性や性に関する正しい知識の普及啓発に取り組む。
- 広報や産業文化祭等の機会を利用し、10代での飲酒や喫煙が身体へ及ぼす影響、及び、妊娠・出産に適した時期についての普及啓発を行う。
- 乳幼児健診等時には、保護者の気持ちに寄り添いながら子どもの特性に応じた相談支援を継続する。
- 子どもの心身の健康維持のため、学校等教育関係機関や地域で活動している民生委員・児童委員や主任児童委員等の関係機関と連携を図りながら支援をしていく。

## 2 規則正しい生活習慣づくり

### （1）これまでの取り組み

- 小中学生を対象に小児生活習慣病予防健診を実施し、指導が必要な小中学生に対し、学校と医療機関、市が連携協力して相談・指導を行っている。
- 朝食の欠食は、生活リズムの乱れを背景とする可能性があるため、乳幼児健診等の機会を利用して、乳幼児期から食事や生活リズムの重要性を継続的に普及啓発している。

## (2) 評価

指標名	ベースライン	令和2年度	中間評価	最終評価 目標
5 児童・生徒における 肥満傾向児の割合				
小学生	12.2%	10.9%	やや遅れ	減少
中学生	10.8%	12.2%		
6 児童・生徒における 痩身傾向児の割合				
小学生	1.1%	2.1%	やや遅れ	減少
中学生	1.8%	2.1%		
7 朝食の欠食状況				
小学生	9.0%	9.6%	やや遅れ	減少
中学生	11.9%	15.9%		

○指標No.5「児童・生徒における肥満傾向児の割合」、指標No.6「児童・生徒における痩身傾向児の割合」、指標No.7「朝食の欠食状況」について、いずれの指標も目標に達していない。小学生・中学生の肥満、やせ、朝食欠食の問題は、一日の生活リズムや乳幼児期からの食生活と関連が深い。

○指標No.7「朝食の欠食状況」については、特に中学生において朝食を欠食する生徒が増加している。

## (3) 今後の対策

○小児生活習慣病予防健診における、精密検査受診率向上のため、研修会等の機会を通して、小児期からの生活習慣病予防の重要性を養護教諭と共有し、対象者への受診勧奨を行う。

○広報等により、生活習慣病予防と適正体重維持の重要性について啓発する。

○乳幼児健診等で「早起き・早寝・朝ごはん」の重要性の啓発を継続するとともに、実現のためにその家庭や保護者の気持ちに寄り添いながら相談を実施する。

○健康政策課や食生活改善推進員、学校等と連携し、子どものより良い生活習慣の定着に向けて取り組んでいく。

### 3 学童期の歯科保健

#### (1) これまでの取組み

- 養護教諭と連携し、小中学校の全児童・生徒を対象に、フッ化物洗口を実施している。
- 小中学校を対象に外部講師によるむし歯予防講話を行い、口腔衛生の知識の普及啓発に努めている。
- 子どものむし歯予防のスタートとして、妊娠届出時からパンフレットを用いて口腔衛生の重要性を啓発している。
- 乳幼児期からバランスのよい食事とおやつ・水分のとり方等について普及啓発している。

#### (2) 評価

指標名	ベースライン	令和2年度	中間評価	最終評価目標
8 12歳(中学1年生)の永久歯の一人当たり平均むし歯数	1.2本(H26)	0.84本	順調	減少
9 歯肉に炎症のある生徒の割合 小学生 中学生	25.7% (H23国)	4.2%(市) 6.1%(市)	評価困難	減少

- 指標No.8「12歳(中学1年生)の永久歯の1人当たり平均むし歯数」は、ベースライン値と比べて大幅に減少している。
- 指標No.9「歯肉に炎症のある生徒の割合」について、ベースライン値は国の10代の歯科疾患実態調査の値、直近値(令和2年度)は市の永久歯う蝕状況調査の値を示しており、調査方法が異なっているため、評価困難とした。

#### (3) 今後の対策

- 学校や歯科医師会等と連携し、フッ化物洗口を継続する。また、歯磨き等の生活習慣や食事・水分のとり方といった食習慣、定期的な歯科受診の重要性についての啓発を行う。
- 妊娠期、乳幼児期からの口腔衛生の重要性やバランスのよい食事について普及啓発を継続する。

3 基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

目標：妊産婦や子どもの成長を見守り、親子を孤立させない地域づくりを推進する

(1) これまでの取組み

- 妊娠届時の面接や乳幼児健診等の母子保健事業において、相談窓口の周知や子育て支援サービス等について情報提供をしている。
- 出生後の手続きに合わせ、「産後のママのメンタルヘルスケア（マタニティブルー、産後うつ病）」についての情報提供や「祖父母手帳（孫育てについて）」の配布を行い、家族の育児協力等の必要性について啓発している。
- 乳幼児健診時に、祖父母向けのむし歯予防のリーフレットを配布し、広報誌に育児に関する情報（早起き・早寝・朝ごはんの重要性、むし歯予防等）を掲載し、地域への子育てに関する情報発信をしている。
- 妊娠届や乳幼児健診等において、喫煙や受動喫煙のリスクに関する情報提供をしている。

(2) 評価

指標名	ベースライン	令和2年度	中間評価	最終評価目標
1 妊娠・出産について満足しているものの割合	81.5%	89.6%	順調	増加
2 この地域で子育てをしたいと思う親の割合				
4か月児健診	97.4%	97.0%	概ね順調	増加
1.6歳児健診	96.6%	95.9%		
3歳児健診	97.0%	96.0%		
3 主体的に育児にかかわっていると感じている父親の割合(4か月児健診)	57.5%	68.7%	順調	増加
4 育児期間中の両親の喫煙率				
母 4か月児健診	5.6%	3.5%	順調	減少
1.6歳児健診	8.1%	6.2%		
3歳児健診	13.0%	11.1%		
父 4か月児健診	46.9%	37.8%		
1.6歳児健診	56.1%	42.1%		
3歳児健診	45.7%	42.2%		

- 指標No.1「妊娠・出産について満足しているものの割合」は約90%を占めており、また、指標No.2「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」が、すべての乳幼児健診で95%以上であるため、安心して妊娠・出産・育児できる環境であると考えます。
- 指標No.3「主体的に育児にかかわっていると感じている父親の割合」が6割を超えており、積極的に育児参加する父親の割合が増加している。  
育児への父親の積極的な関わりにより、母親の精神的安定をもたらすことが期待できるため、母親だけでなく、父親への相談支援も必要となっている。
- 指標No.4「育児期間中の両親の喫煙率」は母、父共に減少している。

### (3) 今後の対策

- 引き続き、子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠届出時における妊婦アンケートの実施及び面接を行い、母子保健や育児に関する相談等に対応し、親が不安を抱え孤立しないように、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を継続し、相談支援体制の充実を図っていく。
- 出産、育児への父親の積極的な関わりにより、母親の精神的安定をもたらすことが期待できるため、母子健康手帳交付時面接をはじめ、乳幼児健診等の母子保健事業において、父親も含めた相談支援を行っていく。
- 出生後の手続きや乳幼児健診等において、祖父母向けの育児に関するリーフレット（祖父母手帳）や喫煙、受動喫煙等たばこの害に関するリーフレットを配布し、広報誌に育児に関する情報（早起き・早寝・朝ごはんの重要性、むし歯予防等）を掲載し、地域への子育てに関する情報発信を継続していく。

4 重点課題① 妊娠期からの児童虐待予防への取り組み

目標：親子の愛着を育むことで、子どもの虐待を予防する

(1) これまでの取り組み

- 平成 28 年度から大田原市子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠届出時に妊婦アンケートの実施及び面接を行い、支援が必要な妊産婦に対して、個別支援計画を立案し、個々に応じた支援を行っている。
- 平成 29 年度から、産前産後サポート事業や養育支援ヘルパー派遣事業、産後ケア事業を開始し、安心して子育てできる体制づくりを行っている。
- 出生届の手続き等の際に、窓口にて「乳幼児揺さぶられ症候群」について情報提供をし、赤ちゃんの泣きへの対処法を周知している。
- 「しつけを名目とした児童虐待の防止」について、乳幼児健康診査や相談等において、リーフレットの配布や個別相談を実施するなど、普及啓発している。
- 子どもの発達や育児について不安や心配を抱える親に対し、相談窓口の周知や個別相談を行っている。
- エジンバラ産後うつ病質問票が高い点数（9 点以上）等、支援が必要な妊産婦について、養育支援連絡票などで産科医療機関等と連携を図り、地域での支援を行っている。

(2) 評価

指標名	ベースライン	令和 2 年度	中間評価	最終評価目標
1 子どもを虐待していると思う親の割合				
4 か月児健診	12.0%	4.7%	順調	減少
1 歳 6 か月児健診	19.8%	14.4%		
3 歳児健診	43.3%	29.5%		
2 乳幼児健康診査の受診率				
4 か月児健診	99.1%	97.8%	概ね順調	増加
10 か月児相談	96.7%	92.9%		
1 歳 6 か月児健診	98.8%	95.3%		
2 歳児歯科健診	95.5%	98.2%		
3 歳児健診	97.1%	99.4%		
3 乳幼児揺さぶられ症候群を知っている親の割合	98.9%	99.0%	順調	増加



4 産後ケアの実施	未実施	実施	順調	委託医療機関の増加
-----------	-----	----	----	-----------

- 指標No.1「子どもを虐待していると思う親の割合」は減少し、改善傾向にある。  
これは、妊娠期から支援が必要な妊婦と関わり、出産後も切れ目ない支援を継続していることが、母の支援をより充実させ、虐待予防につながっていると考える。
- 指標No.4「産後ケアの実施」は、現在6か所の産科医療機関等と委託契約し実施している。

### (3) 今後の対策

- 安心して子育てできる体制づくりのため、支援が必要とされる妊産婦に対して個別支援計画を立案し、計画に応じて産前産後サポート事業や養育支援ヘルパー事業、産後ケア事業の実施継続をする。
- 育児の孤立感や不安の解消、仲間づくりの機会として、プレママ教室（妊婦教室）・BPプログラム（親子の絆づくりプログラム）の実施を継続する。
- 乳幼児健康診査や相談において、リーフレット（「厚生労働省 愛のムチゼロ作戦」）を配布し、「しつけを名目とした児童虐待の防止」について、普及啓発を継続する。また、子どもの成長に見通しを持てるような、親に寄り添う相談支援を継続していく。
- 支援を必要とする対象者に対し、必要に応じて大田原市要保護児童対策地域協議会や、医療機関、また、福祉課や地域で活動している民生委員・児童委員、主任児童委員等の関係機関と連携を図り、支援の継続を行う。

5 重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

目標：親や子どもの多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を支援する

(1) これまでの取組み

- 乳幼児健診等において、「育児アンケート」や「すこやか親子アンケート」等をもとに、親の悩みや不安、問題等を把握し、寄り添う姿勢で相談等の支援を実施している。また、育児に関する相談窓口を周知している。
- 親の感じている「育てにくさ」の要因は様々であるため、個々に寄り添いながら、家庭と市だけでなく、保育園、幼稚園、医療機関、教育委員会等とも連携しながら就学に向けた途切れない支援を実施している。
- 乳幼児健診等の母子保健事業や広報誌において、子どもの成長発達に関する知識の普及、啓発を行っている。また、子育て支援サービスについての情報提供を行っている。

(2) 評価

指標名	ベースライン	令和2年度	中間評価	最終評価目標
1 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合				
4か月児健診	82.4%	90.4%	順調	増加
1.6歳児健診	75.1%	83.1%		
3歳児健診	70.0%	96.0%		
2 育てにくさを感じている親の割合				
4か月児健診	19.0%	10.1%	順調	減少
1.6歳児健診	26.8%	24.0%		
3歳児健診	35.4%	31.6%		
3 育てにくさを感じた時に対処できる親の割合				
4か月児健診	86.9%	92.7%	順調	増加
1.6歳児健診	82.3%	95.4%		
3歳児健診	84.4%	95.7%		

4 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合				
4 か月児健診	90.0%	93.1%	順調	増加
1.6 歳児健診	93.2%	97.1%		
3 歳児健診	84.9%	85.1%		

○指標No.2「育てにくさを感じている親の割合」が減少し、指標No.3「育てにくさを感じた時に対処できる親の割合」が増加した。また、指標No.4「子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合」も増加したことは、乳幼児健診等において、子どもの成長発達について丁寧に説明し、親に寄り添う支援を継続してきたためと考える。

### (3) 今後の対策

- 親の感じている「育てにくさ」の要因は様々であるため、乳幼児健診等において親の悩みや不安等に気づき、寄り添う姿勢で相談等を行っていく。特に、第1子で、親が育てにくさを感じていたり、育児不安が強い方に注目し、支援していく。
- 「育てにくさ」の要因には、発達障害等子どもの要因だけでなく、親の経験不足や育児支援の不足、心身状態の不調、親子を取り巻く環境等様々な要因があるため、今後も、家庭と市だけでなく、保育園、幼稚園、医療機関、教育委員会等関係機関と連携しながら、就学に向けて途切れない支援を実施していく。
- 親が子育てで悩んだ時に気軽に相談できるよう、育児に関する相談窓口について、引き続き周知していく。また、必要に応じて健康政策課が実施する「心の健康相談室」等、親自身の相談窓口についても周知を図る。
- 子どもの年齢が上がるにつれ、精神、運動、情緒等の発達が著しくなり、それに伴い育児の悩みや不安が多様化し、増加することが考えられるため、親が子どもの成長、発達を理解し、見通しが持てるように、乳幼児健診等において子どもの成長発達に関する知識の普及、啓発を行っていく。

## 第4章 評価及び今後の取り組みの方向性

### 1. 評価

課題名	指標数	順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ	評価困難
基盤課題 A	12	8	1			3
基盤課題 B	9	3		3	1	2
基盤課題 C	4	3	1			
重点課題①	4	3	1			
重点課題②	4	4				
計	33	21 (63.6%)	3 (9.1%)	3 (9.1%)	1 (3.0%)	5 (15.2%)

基盤課題 A 12 指標のうち、9つの指標は「順調」「概ね順調」、3つの指標は評価困難と評価しました。

基盤課題 B については、9つの指標のうち3つの指標は「順調」、また、4つの指標は「遅れ」「やや遅れ」、2つの指標は評価困難と評価しました。

基盤課題 C、重点課題①、重点課題②は、すべての指標において直近値（令和2年度）が策定時（ベースライン）の値より改善し、最終評価目標に向けて「順調」または「概ね順調」に進捗していると評価しました。

評価困難と判断した指標のうち、計画策定時（ベースライン）と調査方法が異なる4つの指標については、最終評価において、中間評価時と同じ調査方法で評価を実施します。

今後、最終評価にむけて後期の5年間では、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を継続的に推進することと、児童虐待の発生予防の視点も重視し、関係機関との連携強化に努めながら、安心して子育てができる環境・支援をより充実させていきます。また、自己肯定感を高めるための土台作りとして、乳幼児期からの親子関係の構築のための支援が必要であるため、母子保健事業を推進してまいります。

目標に達していない課題については、各関係機関や関係職種と連携を図り、目標達成に向けさらに推進してまいります。

### 2. 今後の取り組みの方向性

計画の後期については、おおたわら国造りプラン、他各関連計画等との十分な整合性を図るとともに、関係部署、関係機関、団体等と相互に連携・協力し、安心して妊娠・出産・子育てできるよう各種事業を総合的かつ効果的に推進してまいります。

### 3. 進捗管理

母子保健連絡協議会において、年度ごとに母子保健事業の実績等を基に、地域課題を分析・共有し、最終目標達成に向け、計画の推進に努めていきます。

評価指標一覧

目標に対して「順調」=青 「概ね順調」=緑  
 「やや遅れ」=黄 「遅れ」=赤  
 「評価困難」=白色

指標名		ベースライン (H28)	国 H30	栃木県 H30	大田原市 H30	大田原市 R2	中間評価 (5年後)	最終評価 (10年後) 目標	ベースラインのデータソース	
基盤課題A	1 全出生数中の低出生体重児の割合	10.4%	9.4%	10.6%	7.9%	8.9%	減少	減少	大田原市保健事業実績報告書	
	2 妊娠中の妊婦の喫煙率	3.4%	2.4%	2.1%	2.0%	1.5%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問②)	
	3 育児期間中の両親の喫煙率	母								すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
		4か月児健診	5.6%	3.5%	4.2%	4.4%	3.5%	減少	減少	
		1.6歳児健診	8.1%	6.4%	6.2%	9.8%	6.2%			
		3歳児健診	13.0%	7.9%	8.2%	8.4%	11.1%			
		父						減少	減少	
		4か月児健診	46.9%	35.0%	37.4%	42.2%	37.8%			
	1.6歳児健診	56.1%	36.1%	37.9%	46.1%	42.1%				
	3歳児健診	45.7%	36.2%	37.5%	42.0%	42.2%				
	4 妊娠中の妊婦の飲酒率	1.1%	1.2%	0.7%	1.9%	0.5%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑤)	
	5 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健診	99.1%	95.5%	97.8%	98.1%	97.8%	維持	増加	大田原市保健事業実績報告書
10か月児相談		96.7%			99.6%	92.9%				
1.6歳児健診		98.8%	96.2%	97.3%	98.2%	95.3%				
2歳児歯科健診		95.5%			94.8%	98.2%				
3歳児健診		97.1%	95.2%	97.2%	98.2%	99.4%				
6 子どものかかりつけ医を持つ親の割合	医師	97.5%	77.8% (3~4か月児)	80.2% (3~4か月児)	83.2% (3~4か月児)	85.2%	減少	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)・平成30年度から、すこやか親子21アンケート	
	歯科医師	49.4%	48.8% (3歳児)	36.2% (3歳児)	39.1%	34.3%	減少			
7 #8000番を知っている親の割合		64.8%	82.5%	75.4%	74.7%	83.5%	増加	増加		
8 子どもの生活リズム	7時までに起床する児の割合	67.1%				64.0%		増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)	
	21時までに就寝する児の割合	31.2%				24.6%		増加	=調査方法がベースライン値と異なっている。(幼稚園・保育園通園中の年中児)	
9 主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度		62.0%				64.2%		増加		
10 天気の良い日は、保育園・幼稚園で1日60分以上外遊びする園の割合		100.0%				100%	達成	維持	保育園・認定こども園における身体活動(体を動かす遊び)に関するアンケート(市内18園対象)	
11 虫歯のない3歳児の割合		75.3%		86.9%	84.1%	86.7%	増加	増加	大田原市保健事業実績報告書	
12 仕上げ磨きをする親の割合		97.8%	73.1% (H29)	73.8%	95.8%	99.0%	増加	増加	2歳児歯科健診票集計	
基盤課題B	1 10代の人工妊娠中絶率	栃木県	5.3% (H26)	4.8% (H29)	4.0% (H30)	—		減少	とちぎの母子保健	
	2 10代の自殺死亡率(人口10万対)	10歳から14歳	1.1	1.9	1.2	3.5 (R1)	増加	減少	人口動態統計(人口10万人あたり1年間の自殺死亡者数)	
		15歳から19歳	4.3	8.7	10.9	9.8 (R1)				
	3 小中学生の飲酒率		13.6% (小学生)	H29 男:3.6% 女:2.7% (中3)	男:1.5% 女:0.3% (全日制高2)		9% (小学生)	減少	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)
			10.8% (中学生)	男:10.4% 女:8.0% (高3)			8% (中学生)			
	4 小中学生の喫煙率		1.1% (小学生)	H29 男:0.4% 女:0.4% (中3)	男:0.5% 女:0.1% (全日制高2)		0.7% (小学生)	減少	減少	
		0.6% (中学生)	男:3.0% 女:1.4% (高3)			0.5% (中学生)				
5 児童・生徒における肥満傾向児の割合	小学生	12.2%	8.9%		11.9%	10.9%	減少	減少	小児生活習慣病予防健診結果	
	中学生	10.8%			10.6%	12.2%	増加			
6 児童・生徒における痩身傾向児の割合	小学生	1.1%			2.3%	2.1%	増加	減少	小児生活習慣病予防健診結果	
	中学生	1.8%			1.9%	2.1%				

指標名		ベースライン (H28)	国 H30	栃木県 H30	大田原市 H30	大田原市 R2	中間評価 (5年後)	最終評価 (10年後) 目標	ベースラインのデータソース	
基盤課題B	7 朝食の欠食状況	小学生 9.0%		男:15.1% 女:14.5% (小5)		9.6%	増加	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)・児童生徒の体力・運動能力調査	
		中学生 11.9%		男:16.8% 女:17.1% (中2)		15.9%	増加			
	8 12歳(中学1年生)の永久歯の1人当たり平均虫歯数	1.2本 (H26)			0.81本	0.84本	減少	減少		大田原市フッ化物洗口事業報告
9 歯肉に炎症のある生徒の割合	小学生	25.7% (国・H23)			1.6%	4.2%	減少	減少	国:10代の歯科疾患実態調査市:永久歯虫歯状況調査	
	中学生				11.8%	6.1%				
基盤課題C	1 妊娠・出産について満足しているものの割合	81.5%	83.5%	87.6%	90.5%	89.6%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑤)	
	2 この地域で子育てをしたいと思う親の割合【※1】	4か月児健診	97.4%	94.3%		97.6%	97.0%	維持	増加	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
		1.6歳児健診	96.6%	94.5%	95.6%	97.7%	95.9%			
		3歳児健診	97.0%	94.9%		97.0%	96.0%			
	3 主体的に育児にかかわっていると感じている父親の割合【※2】	4か月児健診	57.5%	60.5% 3健診平均	61.0%	64.6%	68.7%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑧)
	4 育児期間中の両親の喫煙率	母								
		4か月児健診	5.6%	3.5%	4.2%	4.4%	3.5%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
		1.6歳児健診	8.1%	6.4%	6.2%	9.8%	6.2%			
		3歳児健診	13.0%	7.9%	8.2%	8.4%	11.1%			
		父								
4か月児健診		46.9%	35.0%	37.4%	42.2%	37.8%	減少	減少		
1.6歳児健診	56.1%	36.1%	37.9%	46.1%	42.1%					
3歳児健診	45.7%	36.2%	37.5%	42.0%	42.2%					
重点課題①	1 子どもを虐待していると思う親の割合(いずれか1つでも当てはまった人の数)	4か月児健診	12.0%	8.1%	5.8%	8.6%	4.7%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
		1.6歳児健診	19.8%	18.9%	15.8%	19.0%	14.4%			
		3歳児健診	43.3%	36.8%	30.6%	36.9%	29.5%			
	2 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健診	99.1%	95.5%	97.8%	98.1%	97.8%	維持	増加	大田原市保健事業実績報告書
		10か月児相談	96.7%			99.6%	92.9%			
		1.6歳児健診	98.8%	96.2%	97.3%	98.2%	95.3%			
		2歳児歯科健診	95.5%			94.8%	98.2%			
	3歳児健診	97.1%	95.2%	97.2%	98.2%	99.4%				
3 乳幼児揺さぶられ症候群を知っている親の割合		98.9%	96.8%		98.9%	99.0%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診問診票から)	
4 産後ケアの実施		未実施			実施(6か所)	実施(6か所)	実施	委託医療機関の増加	大田原市保健事業実績報告	
重点課題②	1 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	4か月児健診	82.4%	88.2%	89.3%	89.9%	90.4%	増加	増加	
		1.6歳児健診	75.1%	78.9%	79.7%	76.3%	83.1%			
		3歳児健診	70.0%	72.7%	74.1%	71.4%	96.0%			
	2 育てにくさを感じている親の割合【※3】	4か月児健診	19.0%	12.2%		13.0%	10.1%	減少	減少	
		1.6歳児健診	26.8%	23.4%		26.2%	24.0%			
		3歳児健診	35.4%	33.6%		36.3%	31.6%			
	3 育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	4か月児健診	86.9%	82.6%		96.6%	92.7%	増加	増加	
		1.6歳児健診	82.3%	79.4%	84.0%	91.9%	95.4%			
		3歳児健診	84.4%	82.9%		94.5%	95.7%			
	4 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合【※4】	4か月児健診	90.0%	91.4%		91.5%	93.1%	増加	増加	
		1.6歳児健診	93.2%	95.0%	90.5%	94.4%	97.1%			
		3歳児健診	84.9%	89.6%		82.1%	85.1%			

※1 基盤課題C-2 この地域で子育てをしたいと思う親の割合について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた値

※2 基盤課題C-3 当初「よくやっている」「時々やっている」と回答があった数値の合計で算出していたが、国の値では「よくやっている」のみの算出であったため、ベースラインを修正

※3 重点課題②-2 育てにくさを感じている親の割合について「いつも感じる」「時々感じる」を合わせた値

※4 重点課題②-4 4か月児健診質問内容 → 生後半年から1歳頃までの多くの子どもは、「親の後追いをすること」を知っていますか

1.6歳児健診質問内容 → 1歳半から2歳頃までの多くの子どもは、「何かに興味をもった時に、指さして伝えようとする」ことを知っていますか

3歳児健診質問内容 → 3歳から4歳頃までの多くの子どもは、「他の子どもから誘われれば、遊びに加わろうとする」ことを知っていますか